

野菜の需給・価格動向レポート(平成28年7月4日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	6月の価格情報 (参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価額			7月 (参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	入荷量及び主要産地	生育及び価格の7月上旬までの見通し	
		上旬	中旬	下旬				
		「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準						
葉 茎 菜 類	キャベツ	67.20	78 (116%)	99 (147%)	88 (131%)	74.19 ・入荷量: 15,447t ・主産地: 群馬(71)、岩手(11)	平均価格 ↓	群馬産は春先の気温高等、天候に恵まれ生育は順調で、前進出荷傾向となっていることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。 群馬産が、平年より多めと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
		81.66	90 (110%)	107 (131%)	97 (119%)	88.91 ・入荷量: 3,681t ・主産地: 群馬(56)、長野(34)		
	たまねぎ	78.12	125 (160%)	131 (168%)	125 (160%)	93.34 ・入荷量: 9,073t ・主産地: 兵庫(42)、佐賀(26)、香川(9)	→	兵庫産は、べと病等の発生により、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。佐賀産は、天候不順による小玉傾向に加え、べと病等の影響により、引き続き平年をかなり下回る出荷の見込み。香川産は、中生及び晩生ともに天候不順のため生育が遅れ、べと病等が発生していることから、引き続き終盤まで平年より少なめの出荷の見込み。 兵庫産、香川産及び佐賀産が平年より少なめ、若しくは大幅な減少と見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		78.12	163 (209%)	156 (200%)	139 (178%)	93.34 ・入荷量: 4,009t ・主産地: 兵庫(81)、佐賀(6)、長崎(6)		
	ねぎ (関東は白ねぎ、 近畿は青ねぎ)	277.31	449 (162%)	423 (153%)	416 (150%)	287.00 ・入荷量: 3,946t ・主産地: 茨城(61)、千葉(12)	↓	茨城産及び千葉産は、トンネル作から露地作の切り替えによる端期を迎えているものの、今後増加してくる露地物の生育が順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 茨城産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を大幅に上回っている価格は、平年に近づくものの、引き続きその水準は平年を上回る見込み。
		334.73	479 (143%)	373 (111%)	311 (93%)	487.13 ・入荷量: 224t ・主産地: 鳥取(44)、北海道(19)、大分(14)、茨城(8)		
	はくさい	67.05	76 (113%)	86 (128%)	54 (81%)	58.82 ・入荷量: 5,841t ・主産地: 長野(87)	→	長野産は、干ばつ気味のところ、梅雨入りによる適度な降雨により生育が順調となったことから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 長野産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。
		74.06	98 (132%)	87 (117%)	54 (73%)	62.79 ・入荷量: 2,693t ・主産地: 長野(96)		
	ほうれんそう	376.10	487 (129%)	475 (126%)	468 (124%)	583.95 ・入荷量: 973t ・主産地: 群馬(27)、茨城(21)、栃木(20)、岩手(13)	→	群馬産は、6月の干ばつ気味の天候により生育が遅れていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。茨城産は、日照不足ではあるものの、生育は順調であり、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、暖冬による前進出荷の影響により、冬春ほうれんそうの切上りが早くなったことから、引き続き平年よりかなり少ない出荷の見込み。 茨城産の出荷が平年並みと見込まれるものの、群馬産及び栃木産が平年より少なめ、若しくはかなり少ないと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		416.73	561 (135%)	558 (134%)	579 (139%)	670.86 ・入荷量: 456t ・主産地: 岐阜(77)、北海道(10)		
レタス (結球)	120.13	138 (115%)	111 (92%)	95 (79%)	120.13 ・入荷量: 9,485t ・主産地: 長野(83)、群馬(12)	→	長野産は、干ばつ気味のところ、梅雨入りによる適度な降雨により生育は順調となったことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 長野産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
	125.61	152 (121%)	115 (92%)	98 (78%)	125.61 ・入荷量: 2,028t ・主産地: 長野(98)			
果 菜 類	きゅうり	189.84	240 (126%)	232 (122%)	275 (145%)	221.22 ・入荷量: 7,667t ・主産地: 福島(41)、岩手(15)、秋田(11)、山形(6)	→	福島産は、生育は順調で、半促成物が前進出荷傾向、露地物も出荷が増加していることから、今後も平年よりやや多めの出荷の見込み。岩手産は、平年よりやや少ない出荷量となっているものの、今後は露地物の増加に伴い、平年並みの出荷の見込み。秋田産は、露地物が曇天及び降雨の影響によりやや生育が遅れているものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。山形産は、夜温が低いことから引き続き平年よりやや少ない出荷の見込み。 山形産が平年よりやや少なめと見込まれるものの、福島産の出荷がやや多め、岩手産及び秋田産が平年並みと見込まれる中で、強い引き合いにより現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		186.08	262 (141%)	222 (119%)	251 (135%)	232.80 ・入荷量: 1,906t ・主産地: 福島(35)、北海道(20)、愛媛(14)		
	トマト (大玉)	230.55	248 (108%)	269 (117%)	272 (118%)	252.46 ・入荷量: 8,529t ・主産地: 青森(17)、北海道(12)、岩手(9)、千葉(9)、栃木(9)、福島(9)	↓	青森産は、天候に恵まれ適度な降雨もあり、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。北海道産は、日照不足で着色不良となっていることから、平年よりやや少なめの出荷となっているものの、天候が回復してきていることから、今後は平年並みの出荷の見込み。岩手産は、日照不足や低温により、一部で病害等が発生しているものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、春作に加え、夏秋作の本格出荷が始まり、平年よりやや多めの出荷となっているものの、今後は春作が終盤を迎え減少することから、平年並みの出荷の見込み。 青森産、岩手産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれる中で、北海道産が平年並みに回復すると見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
		239.96	274 (114%)	292 (87%)	280 (84%)	298.46 ・入荷量: 1,735t ・主産地: 北海道(45)、熊本(11)、岐阜(10)		
	なす	311.92	396 (127%)	415 (133%)	365 (117%)	230.51 ・入荷量: 4,469t ・主産地: 栃木(25)、茨城(25)、群馬(25)、福岡(5)	↓	栃木産は、6月以降の適度な降雨により生育が順調となったことから、平年並みの出荷となっており、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は、ハウス物の出荷が少なめの出荷となっているものの、露地物の生育が順調なため、引き続き平年並みの出荷の見込み。 栃木産、茨城産及び群馬産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
		271.01	360 (133%)	349 (129%)	300 (111%)	232.81 ・入荷量: 1,049t ・主産地: 山梨(26)、大阪(14)、徳島(13)、奈良(9)、愛媛(6)		
	ピーマン	276.65	333 (120%)	346 (125%)	350 (127%)	276.65 ・入荷量: 2,425t ・主産地: 茨城(55)、岩手(26)、福島(9)	→	茨城産は、初期着果が良かった中、終盤を迎え、草勢があまり良くなく、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。岩手産は、低温や日照不足のために生育が緩慢になっているものの、大きな影響はなく、引き続き平年並みの出荷の見込み。 岩手産の出荷が平年並みと見込まれるものの、茨城産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		293.32	285 (97%)	316 (108%)	360 (123%)	293.32 ・入荷量: 499t ・主産地: 青森(14)、兵庫(14)、高知(12)、大分(12)、北海道(8)		
	だいこん	86.59	66 (76%)	91 (105%)	89 (103%)	94.60 ・入荷量: 8,908t ・主産地: 北海道(60)、青森(35)	→	北海道産は、生育は順調となっていることから、平年より多めの出荷となっているものの、今後は後継産地において長雨等の天候不順の影響が懸念され、平年並みの出荷の見込み。青森産は、天候は概ね良好で、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 北海道産及び青森産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。
		89.53	65 (73%)	99 (111%)	99 (111%)	95.37 ・入荷量: 3,071t ・主産地: 北海道(70)、青森(16)、岐阜(11)		
にんじん	133.01	128 (96%)	125 (94%)	112 (84%)	133.01 ・入荷量: 6,584t ・主産地: 青森(44)、北海道(31)、千葉(21)	→	北海道産は、5月の天候不順の影響から生育が遅れ気味で、平年より少なめの出荷となっているが、今後は、天候が回復すると見込まれることから、平年よりやや少なめの出荷の見込み。青森産は、天候は概ね良好で適度な降雨もあることから生育は順調となっており、引き続き平年並みの出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年よりやや少なめに回復すると見込まれるものの、青森産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
	132.62	131 (99%)	134 (101%)	115 (87%)	132.62 ・入荷量: 1,546t ・主産地: 青森(51)、北海道(33)、和歌山(10)			

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	6月の価格情報 (参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	6月の価格情報			7月 (参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	入荷量及び主要産地	生育及び価格の7月上旬までの見通し	「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準
		上旬	中旬	下旬				
いも類	361.20	584 (162%)	472 (131%)	515 (143%)	361.20	・入荷量: 264t ・主産地: 宮崎(48)、鹿児島(27)、中国(13)	→	宮崎産は、大雨等の天候不良の影響で、入荷が伸びず平年より少なめの出荷となっており、今後も順調な入荷が見込めないことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。鹿児島産は、次期作の種イモの確保に加え、昨年からの病害が広がっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		347.90	583 (168%)	540 (155%)				
ばれいしょ	138.39	208 (150%)	195 (141%)	175 (126%)	111.77	・入荷量: 5,653t ・主産地: 茨城(29)、千葉(19)、静岡(15)、長崎(15)、北海道(12)	→	茨城産は、天候に恵まれ生育は順調で肥大も良く前進出荷傾向となっていることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。千葉産は、天候に恵まれ生育は順調で、平年よりやや多めの出荷となっているものの、今後は平年並みの出荷の見込み。静岡産は、天候に恵まれ生育は順調で収穫作業も順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		144.98	211 (146%)	211 (146%)				

注: 1 平均価格は、過去6カ年間(平成20~25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均卸売価格の赤字は平均価格を150%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5カ年平均の数値である。
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで前年実績である。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。

種類	6月の価格情報 (参考) 過去5カ年平均価格	6月の価格情報			7月 (参考) 過去5カ年平均価格	入荷量及び主要産地	生育及び価格の7月上旬までの見通し	「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準
		上旬	中旬	下旬				
洋菜類	371.45	463 (125%)	569 (153%)	523 (141%)	359.68	・入荷量: 1,781t ・主産地: 北海道(59)、長野(23)、米国(10)	→	北海道産は、日照不足気味ではあるが、適度な降雨もあり、生育は概ね順調で、作付面積が増加していることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。長野産は、適度な降雨により生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		376.30	449 (119%)	562 (149%)				
アスパラガス	1103.17	1,340 (121%)	1,373 (124%)	1,227 (111%)	990.95	・入荷量: 706t ・主産地: 佐賀(21)、栃木(18)、長崎(16)、福島(12)	→	佐賀産は、出荷最盛期に向け、生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、平年並みの出荷となっていたが、前進出荷傾向となっており、今後平年より多めの出荷の見込み。長崎産は、生育に適した気温高・降雨による多湿の気候により生育が順調であったことから、平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は平年並みの出荷の見込み。
		1093.69	1,301 (119%)	1,310 (120%)				
果菜類	209.73	222 (106%)	224 (107%)	234 (112%)	216.73	・入荷量: 2,683t ・主産地: 茨城(26)、神奈川(22)、鹿児島(12)、栃木(8)	→	茨城産は、作付面積はやや減少しているものの、出荷ピークを迎える中、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。神奈川産は、天候は概ね良好で生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。鹿児島産は、天候に恵まれており、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、順調な生育となっており、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		153.06	116 (76%)	144 (94%)				

注: 1 平均価格は、過去5カ年間(平成23~27年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
3 旬別価格の赤字は、平均価格を150%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格を80%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5カ年平均の数値である。
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで前年実績である。

2 野菜の輸出入動向 — 輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入先について —

貿易統計によると、5月の野菜の輸入量は、生鮮野菜が、6万6千トン(前年同月比86%)、加工野菜が1万5千1千トン(同99%)、野菜全体では、2万1千8千トン(同95%)となった。このうち、中国産の野菜合計は1万1千1千トン(同91%)となった。

生鮮野菜を含め、すべての区分が前年を下回ったため、野菜全体でも前年をかなりの程度下回った。

また、前月に引き続き、中国野菜の輸入量が野菜全体の輸入量合計の50%を下回り(46%)、平成28年に入ってから5カ月累計でも50%を下回った(48%)。

また、輸出量は、生鮮野菜が、6万8千8百トン(同80%)、加工野菜が、1万7千3百6千トン(同115%)、野菜全体では、2万4千2百4千トン(同102%)となった。生鮮野菜が前年を大幅に下回ったことから、野菜全体では平年並みの輸出量となった。

区分	平成25年		平成26年		平成27年		平成28年5月		平成28年1月~5月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同月比	前年同月比	前年同月比	
生鮮野菜	85,420	90	88,475	104	82,633	93	65,956	86	34,612	89
加工野菜	1,854,679	97	1,785,487	96	1,752,341	98	151,711	99	704,802	96
野菜合計	2,709,100	95	2,670,222	99	2,579,175	97	217,667	95	1,049,414	94
うち中国産野菜合計	1,416,557	97	1,409,604	100	1,355,497	96	100,670	91	500,803	92
中国産シェア	52		53		53		46		48	

区分	平成25年		平成26年		平成27年		平成28年5月		平成28年1月~5月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同月比	前年同月比	前年同月比	
生鮮野菜	9,302	145	9,429	101	22,924	243	688	80	17,866	417
加工野菜	14,174	122	17,061	120	20,506	120	1,736	115	8,753	115
野菜合計	23,476	130	26,490	113	43,429	164	2,424	102	26,619	223

区分	輸入合計	1位		2位		3位	
		国名	数量	国名	数量	国名	数量
1 たまねぎ	19,273	中国	15,229	ニュージーランド	3,277	オーストラリア	719
2 かぼちゃ	11,963	メキシコ	8,000	ニュージーランド	3,963		
3 にんじん及びかぶ	4,938	中国	4,141	ベトナム	297	ニュージーランド	296
4 ばれいしょ	4,532	米国	4,523	中国	9		
5 ジャンボピーマン	4,414	韓国	4,127	オランダ	204	ニュージーランド	82
6 ねぎ	4,095	中国	4,095				
7 メロン	3,822	メキシコ	3,752	韓国	52	ホンジュラス	19
8 ごぼう	3,173	中国	2,731	台湾	442		

区分	輸出合計	1位		2位		3位	
		国名	数量	国名	数量	国名	数量
ながいも等	433	台湾	212	米国	189	シンガポール	31
きのこ(その他)	129	台湾	92	タイ	15	香港	13
キャベツ等	47	香港	28	シンガポール	14	マレーシア	4

区分	輸入合計	1位		2位		3位	
		国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ	27,825	中国	22,485	ニュージーランド	4,689	オーストラリア	582
かぼちゃ	13,172	メキシコ	8,561	ニュージーランド	4,612		
にんじん及びかぶ	6,520	中国	6,305	オーストラリア	76	ニュージーランド	76
ばれいしょ	1,997	米国	1,997				
ジャンボピーマン	2,909	韓国	2,579	オランダ	244	ニュージーランド	86
ねぎ	4,472	中国	4,472				
メロン	3,177	メキシコ	3,150	韓国	26		
ごぼう	2,733	中国	2,277	台湾	456		

区分	輸出合計	1位		2位		3位	
		国名	数量	国名	数量	国名	数量
ながいも等	605	米国	337	台湾	214	シンガポール	52
きのこ(その他)	101	台湾	57	香港	23	タイ	10
たまねぎ及びエシャロット	45	インドネシア	43	マレーシア	2		

資料: 農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料: 財務省「貿易統計」) ※四捨五入の誤差上、合計と個別の数値が一致しない場合があります。

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、松岡、海老沼 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://www.alic.go.jp/y-suishin/yajukyu01_000058.htmlに掲載しています。

※無断転載禁止 ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。